



症例 3

大分県立病院



臨床所見

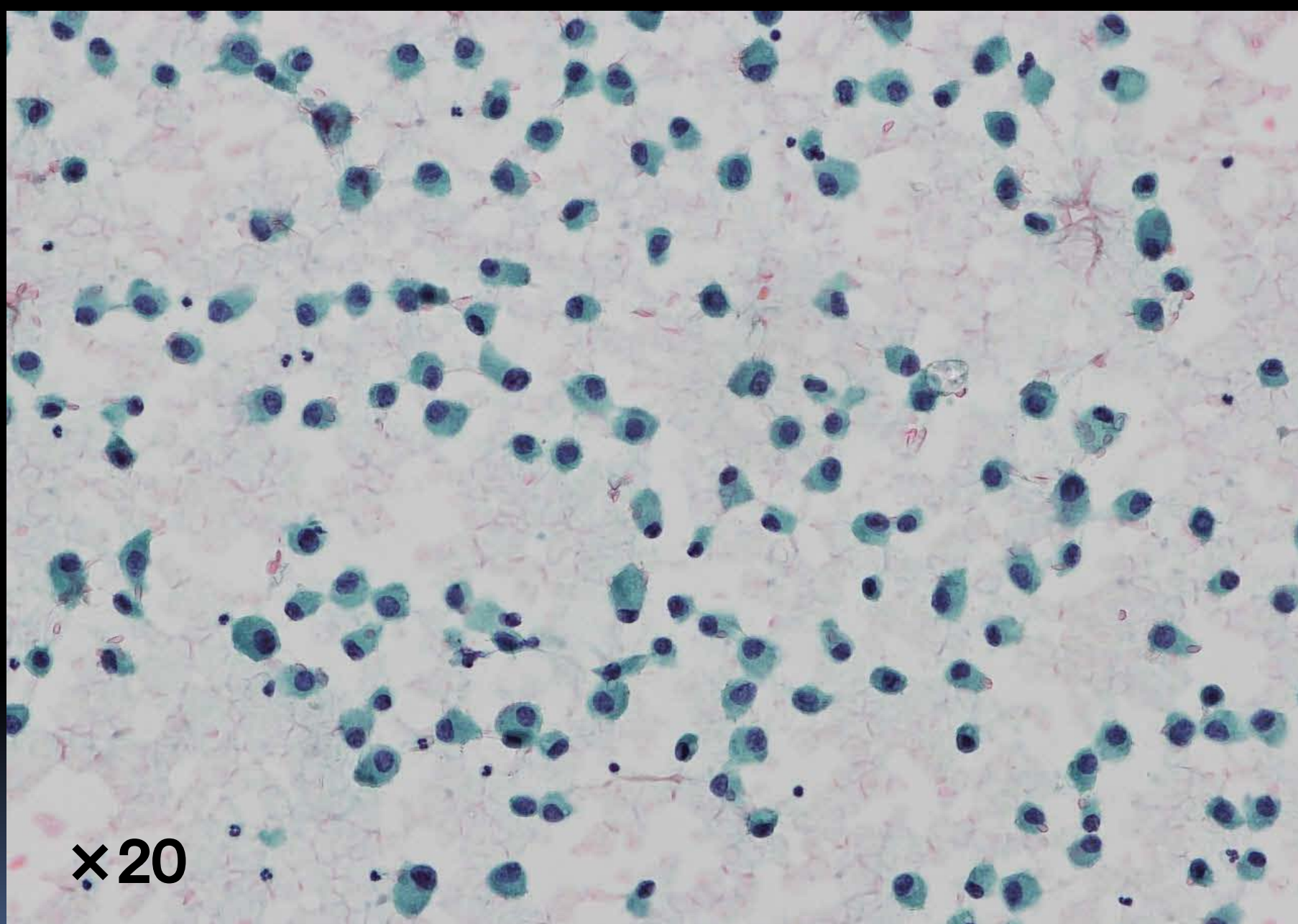
【年齢・性別】 70歳代 女性

【材料】 右乳腺穿刺吸引細胞診
(塗抹標本・針洗浄液(LBC)標本)

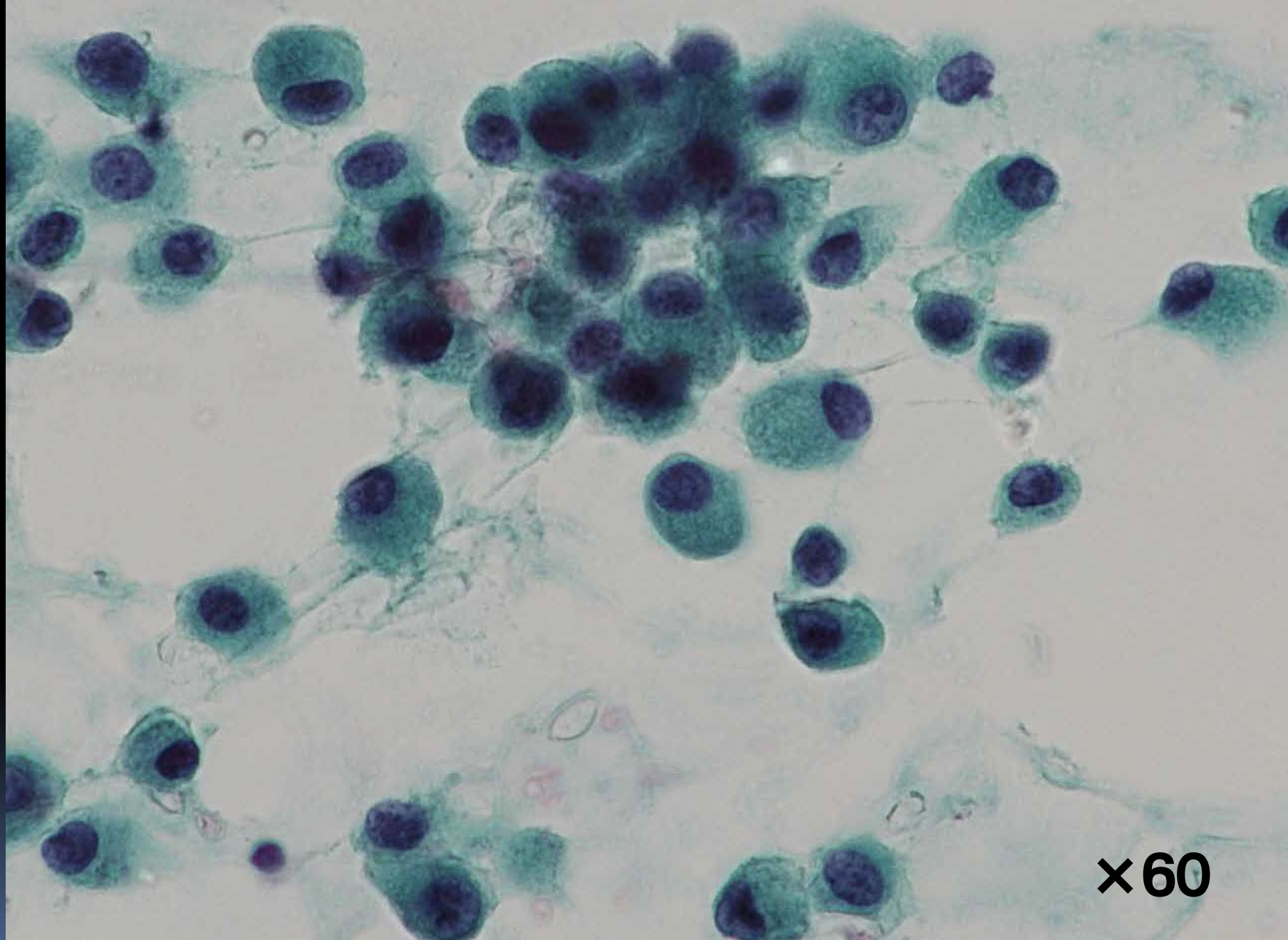
【臨床所見】

右C領域に境界不明瞭、内部不均質、不整形の腫瘤あり

大きさ 16×17×8.6mm 乳癌疑い

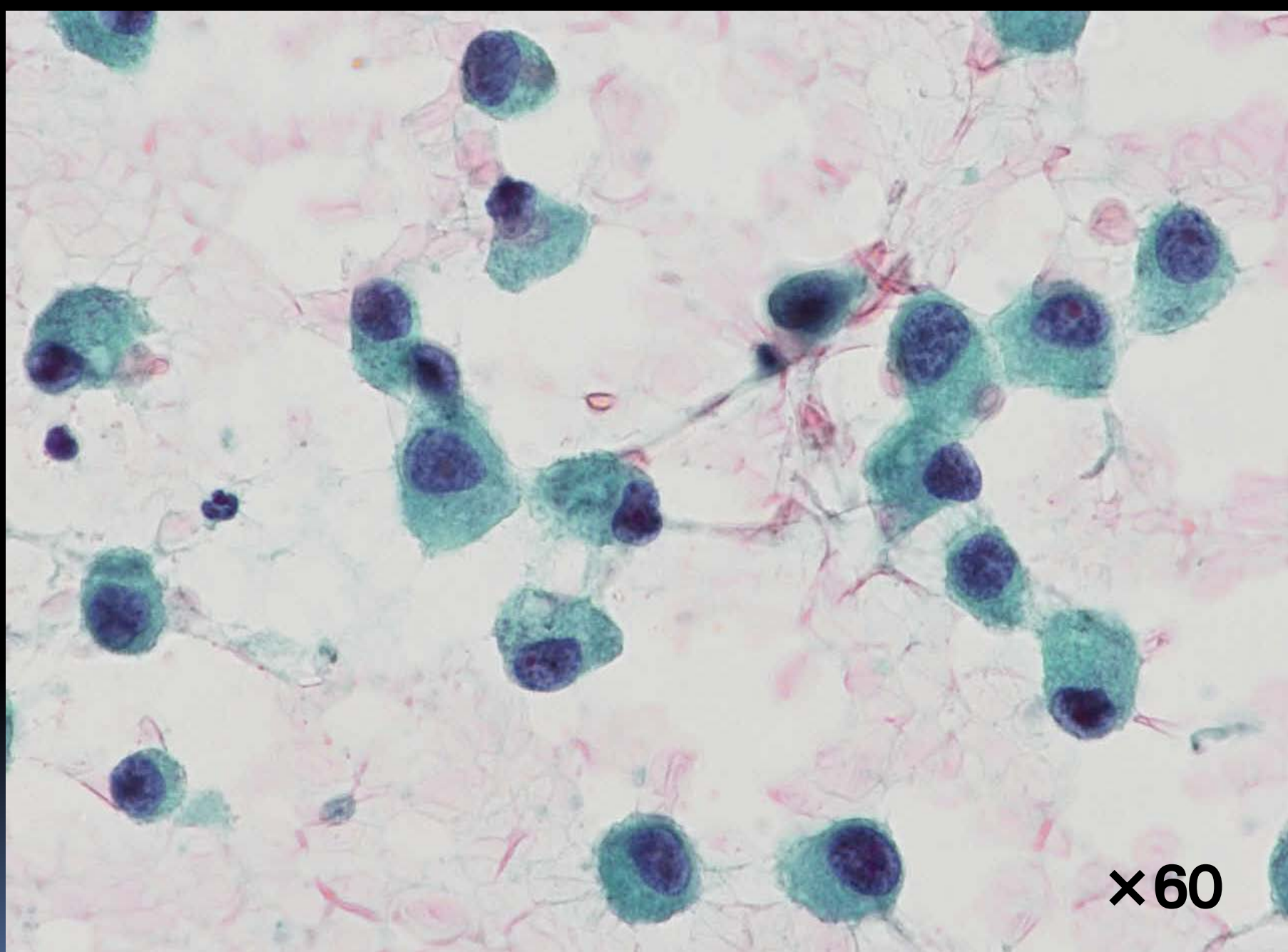


形質細胞様のモノトナスな細胞が孤在性に多数出現

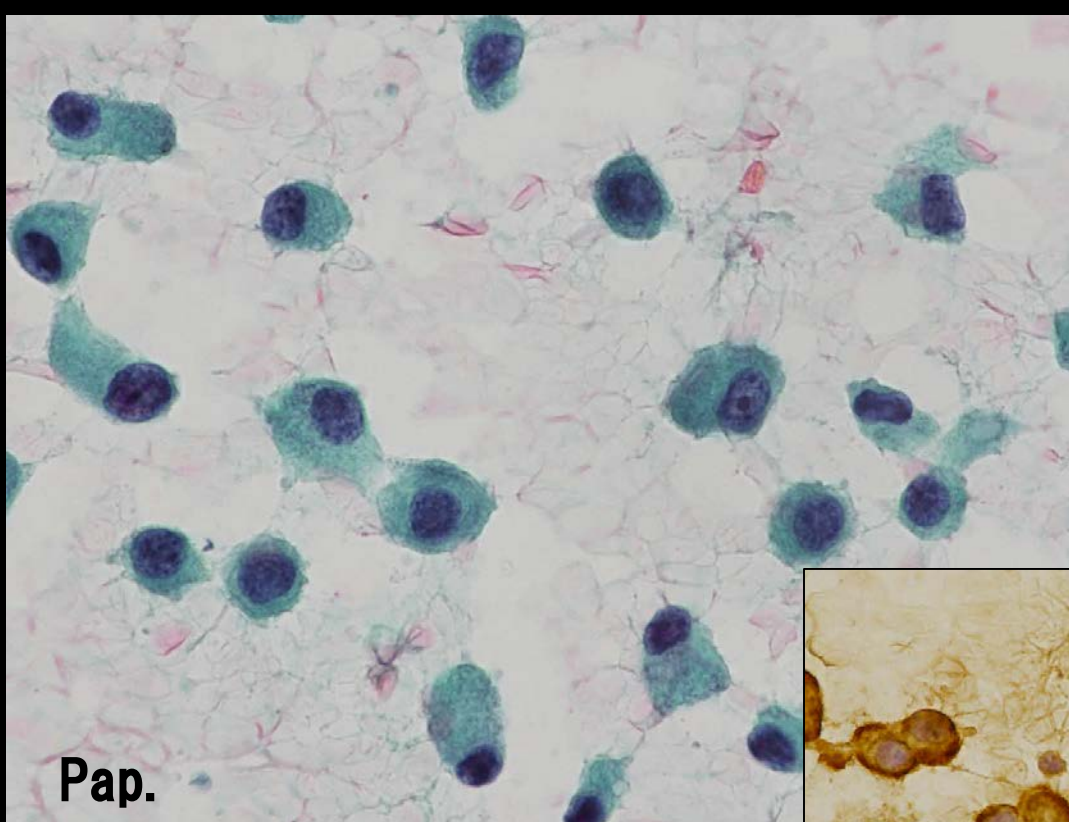


×60

核は偏在傾向、N/C比は増大、微細顆粒状の核クロマチンの増量を認める

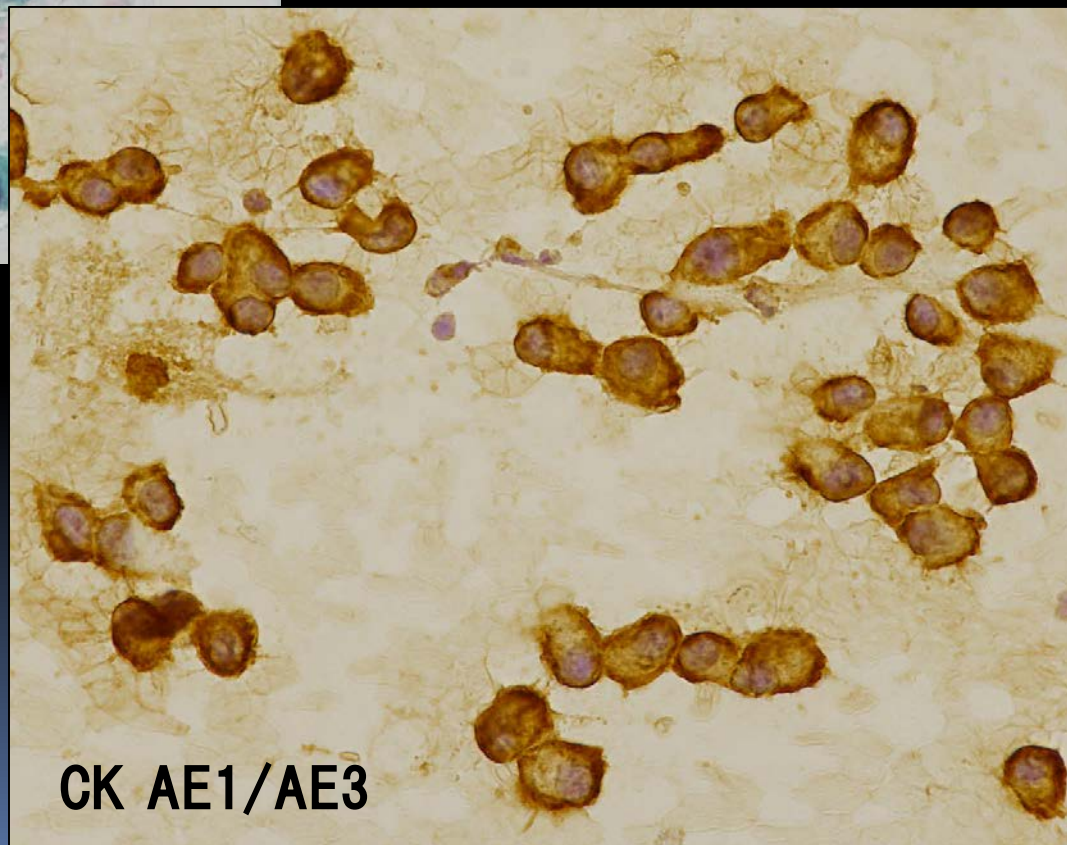


核の大小不同は目立たない、核小体の腫大を認める



Pap.

CK AE1/AE3 で陽性を示し、
上皮性細胞と考えられる



CK AE1/AE3

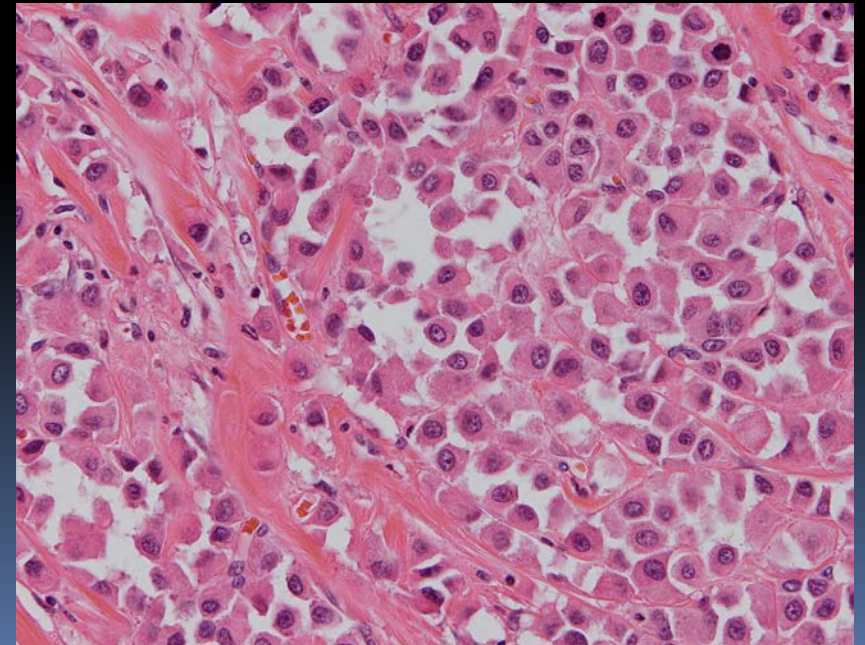
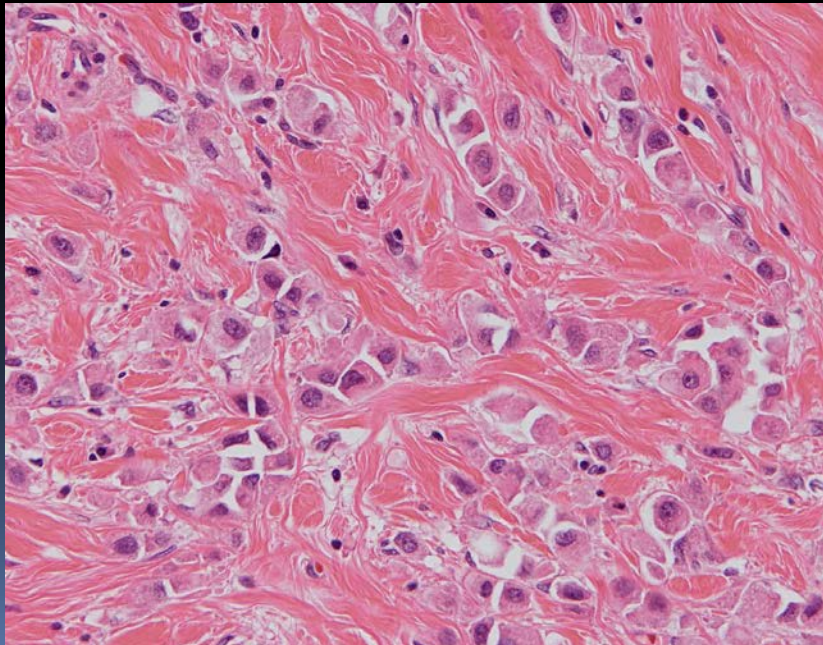
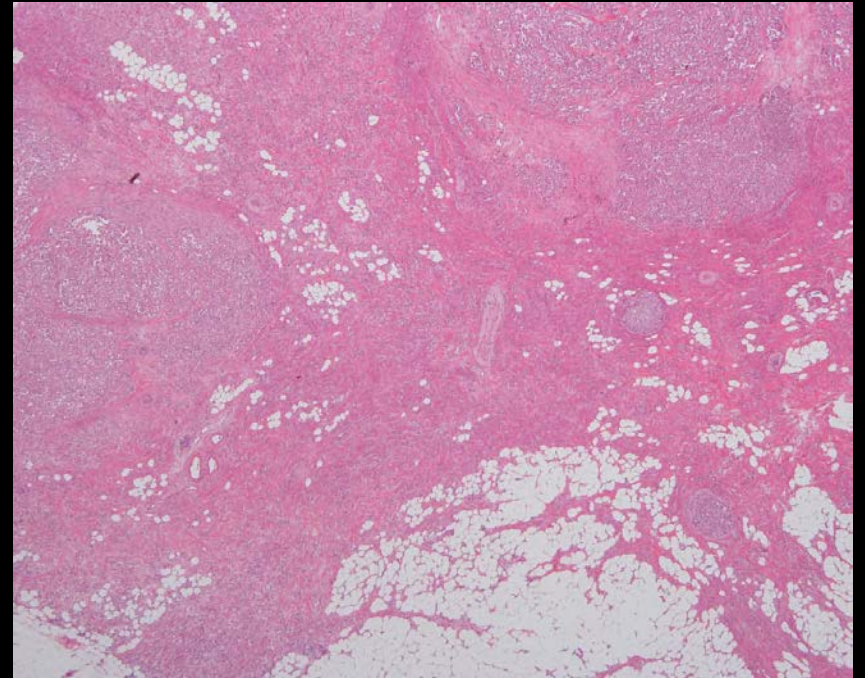
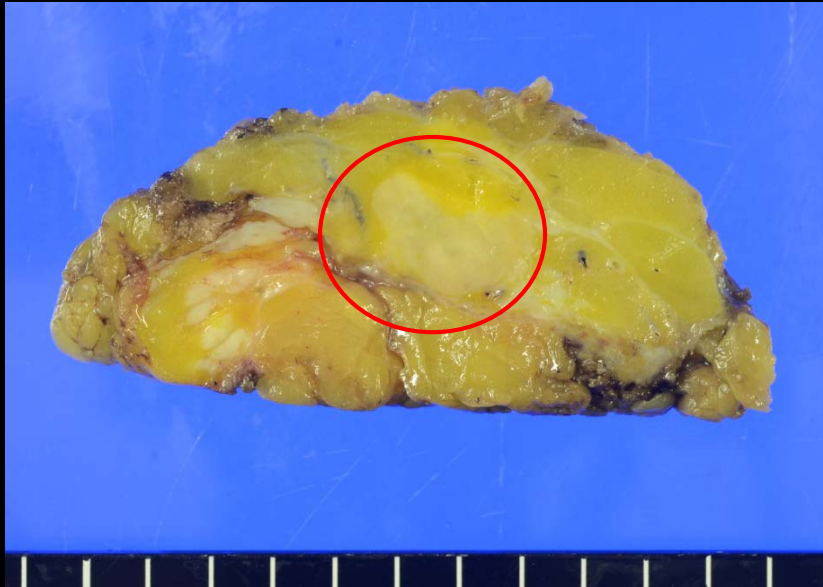


細胞診判定

Class V : adenocarcinoma

solid papillary carcinomaを第一に考える

組織標本





組織診断

Invasive lobular carcinoma, right breast.



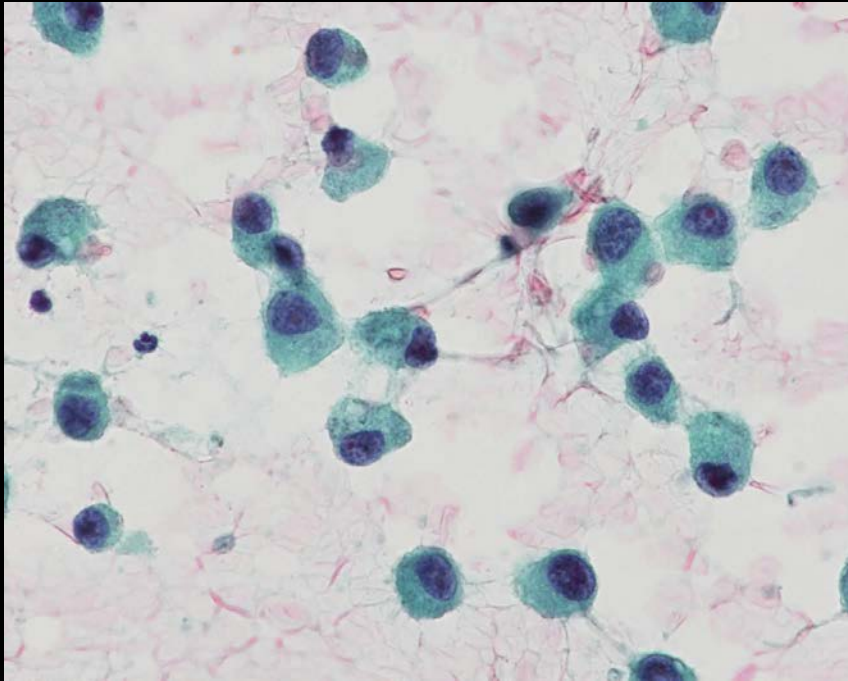
小葉癌の細胞所見

- ・ 小型の腫瘍細胞が孤立散在性から数個の小集塊状に出現する数珠状配列と呼ばれる特徴的な線状配列も認める
- ・ 核は円形～楕円形
- ・ 核クロマチンは微細顆粒状
- ・ 細胞質内小腺腔（ICL）を高率に認める



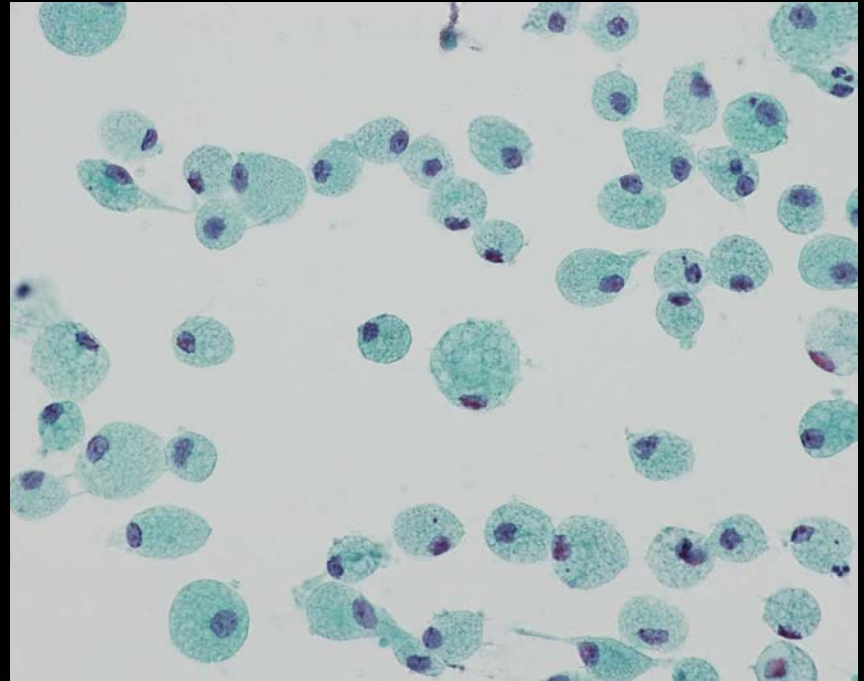
細胞所見の比較①

＜症例＞



- ・ N/C比が大きい
- ・ 核クロマチンが増量している
- ・ 核小体の腫大
- ・ 細胞質が厚い

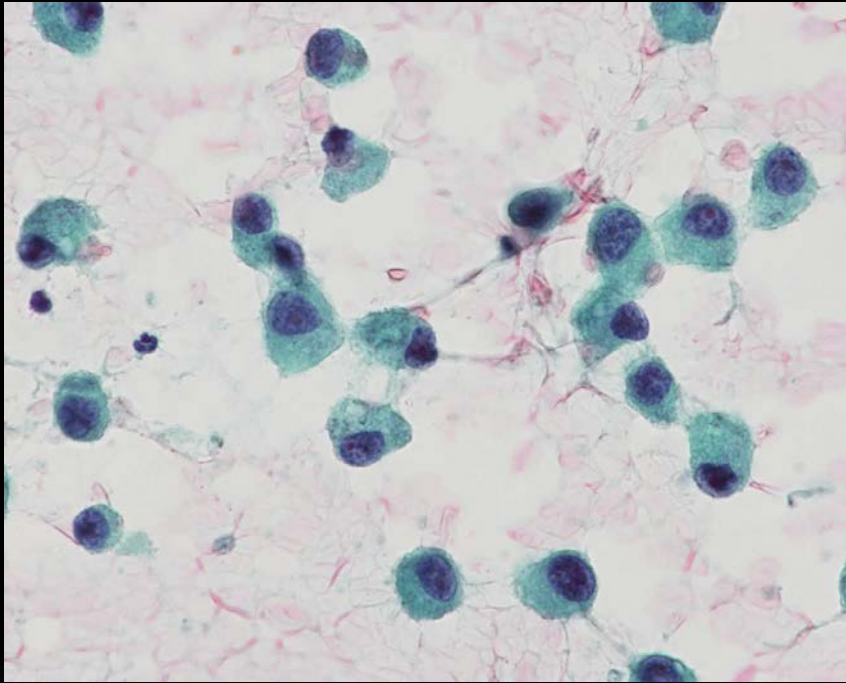
＜泡沫細胞＞



- ・ N/C比が小さい
- ・ 核クロマチンの増量はない
- ・ 細胞質は薄く、泡沫状
- ・ 細胞所見は均一

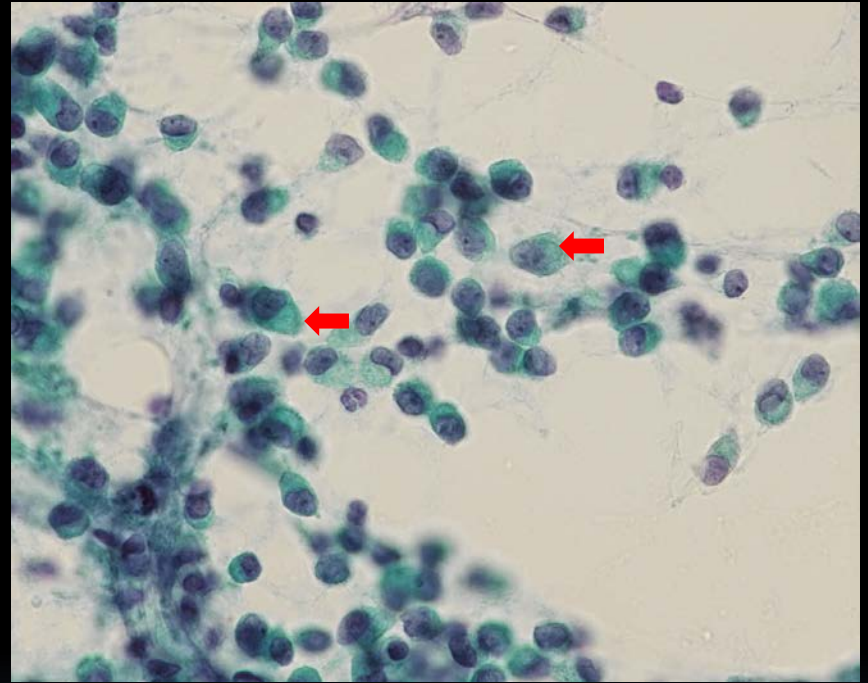
細胞所見の比較②

<症例>



- ・細胞が大きい
- ・微細顆粒状～細顆粒状の核クロマチンが増量
- ・核小体の腫大
- ・細胞質が広く厚い
- ・結合性が疎
- ・細胞の重なりを認めない

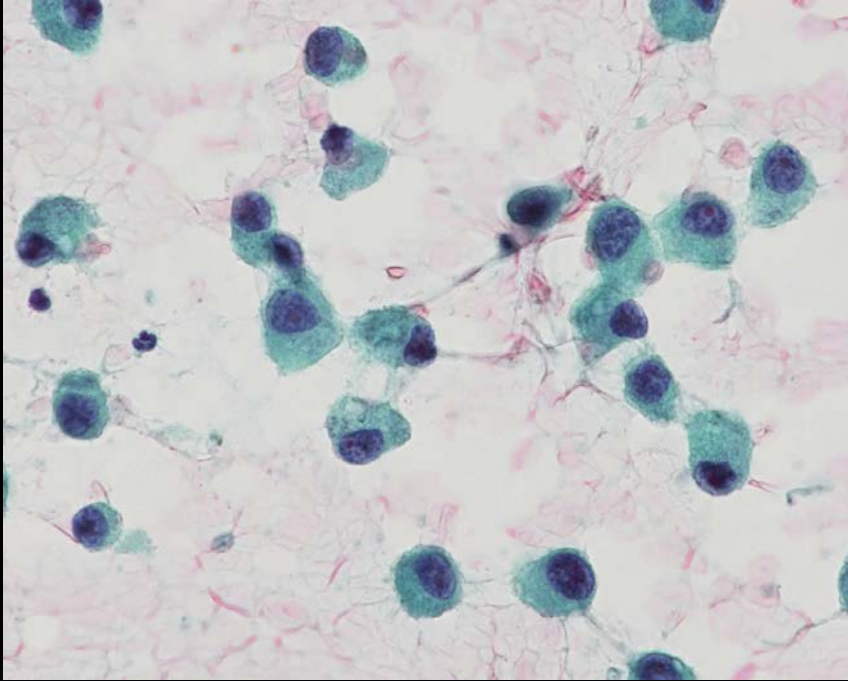
<Solid-Papillary Carcinoma>



- ・細胞が小さい
- ・微細顆粒状クロマチンが不均一に増量（神経内分泌系の核クロマチン）
- ・細胞質内に粘液を認める
- ・血管軸を伴った集塊・粘液の存在

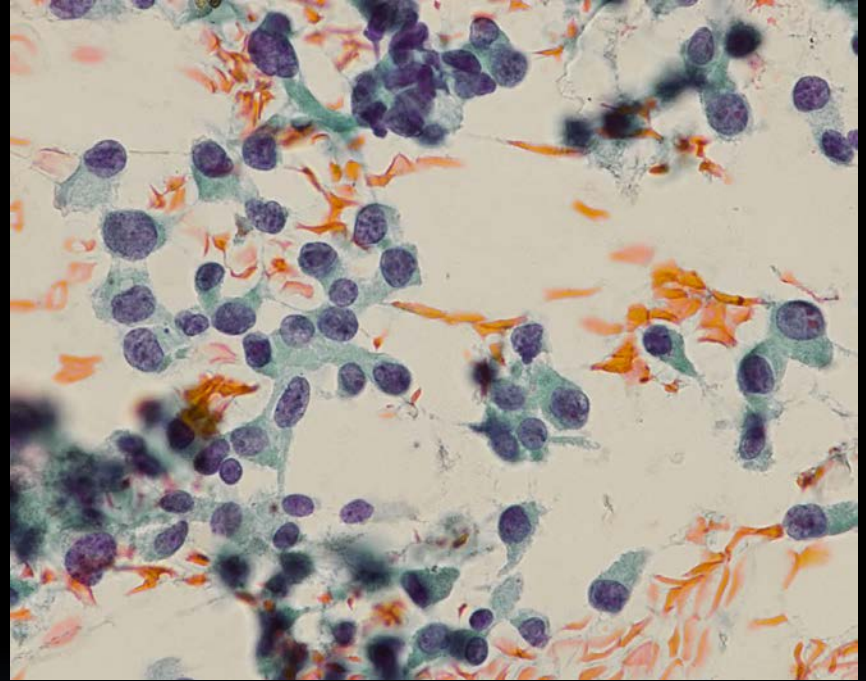
細胞所見の比較③

<症例>



- ・細胞間距離が均一
- ・細胞の重なりを認めない

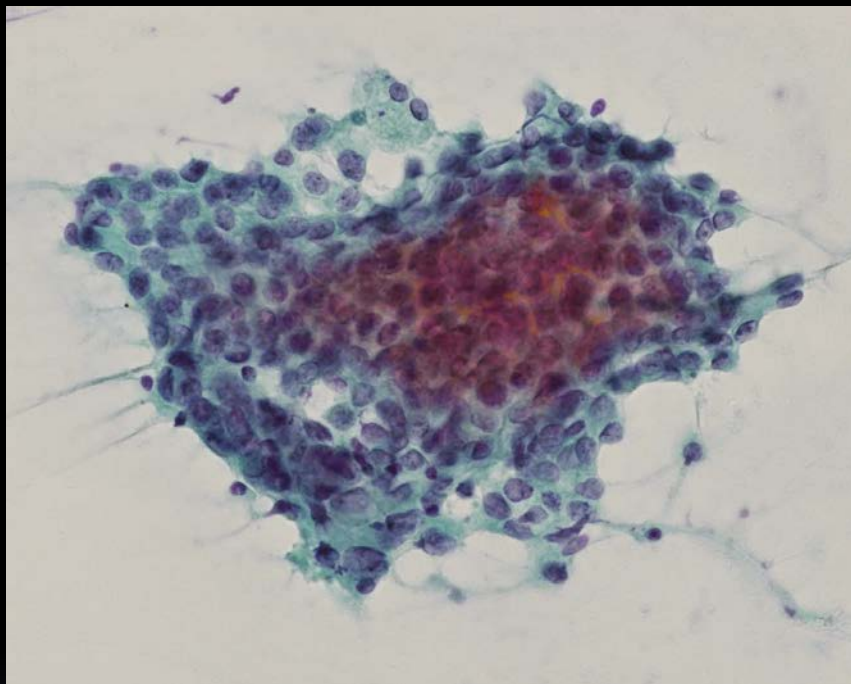
<充実腺管癌>



- ・細胞間距離が不均一
- ・集塊辺縁の細胞も重なりを認める
- ・核の大小不同が目立つ
- ・核クロマチンが粗い

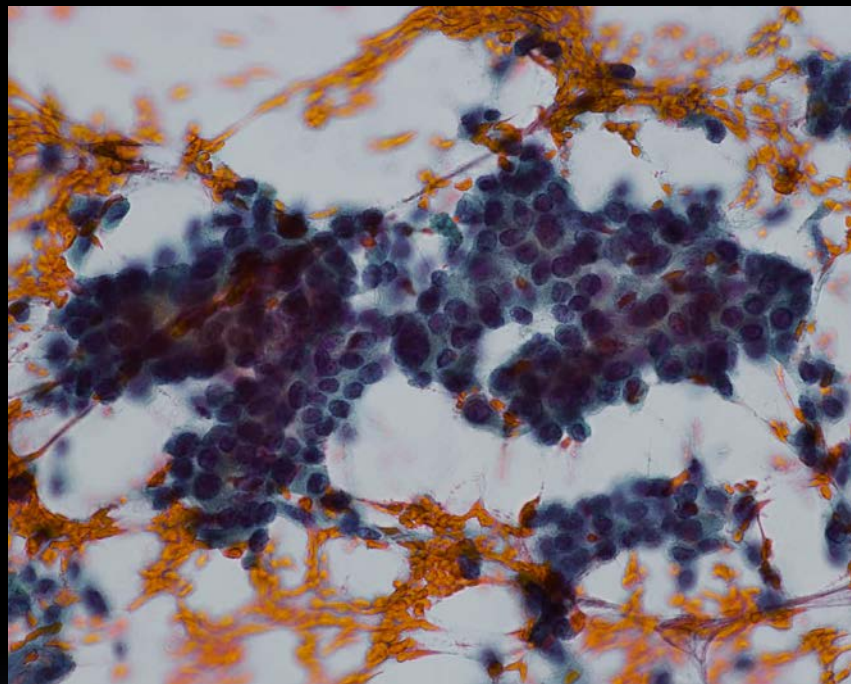
細胞所見の比較④

＜小葉癌＞



- ・ 核間距離が均一
- ・ 核クロマチンが繊細

＜充実腺管癌＞



- ・ 核間距離が不均一
- ・ 核の大小不同が目立つ
- ・ 核クロマチンが粗い

まとめ

- 小葉癌の細胞所見を念頭におく
- 小葉癌にも集塊が出現する
- モノトーンな細胞の出現は腫瘍性病変を考え、詳細に観察する